

審 議 経 過

No. 1

1. 開 会

2. あいさつ

3. 協 議

(1) 「男女協働参画フォーラム」について

開催日 令和4年10月15日（土）

時 間 10:30～12:00

会 場 市民センター 文化ギャラリー

定 員 75名

講 師 田口 香津子 さん アバンセ館長

[専門：臨床心理学・発達心理学・障害児保育]

NPO法人 被害者支援ネットワーク佐賀VOISS副理事長

NPO法人 佐賀県放課後児童クラブ連絡会理事

プロフィール

平成 7年 佐賀女子短期大学こども学科教授

平成24年 佐賀女子短期大学こども学科長・専攻科長

平成26年 佐賀女子短期大学副学長

平成30年 佐賀女子短期大学学長

令和 4年 アバンセ館長

内 容 タイトル：こころを健やかに保つために
心理学を基に、ストレスとの向き合い方など毎日を楽しく過ごすための講座

以上を検討、進めていることを報告

(2) いまりプラザだよりについて

「いまりプラザ30号」を9月、市内全戸班回覧

- ・今年度の活動予定、および活動報告
- ・アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）による、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見を解消するための啓発

○男女協働参画フォーラム開催案内記事について

委 員：フォーラム記事に関し、参加を促すような工夫がほしい。

委 員：コロナ禍で、自主的に制限された生活を、少しでも明るく過ごせるコツを学べることも記事にしては。

事務局：委員の意見にもあるが事務局としても同じく、このフォーラムはコロナ禍で疲弊した社会の中で毎日を心健やかに過ごすため、企画、準備中であり、講師からの回答後、内容を記事にする。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 2

参加を促す工夫としては、サブタイトルやレイアウトを考えていきたい。

○伊万里政策クラブとの意見交換の記事について

委員：よく内容が書かれているが文字数が多すぎて、班回覧でどれくらいの市民が読んでくれるか疑問である。

委員：文字だけでなくイラストや写真を入れ、親しみやすくした方がいいのでは。

事務局：1時間の意見交換の内容を出来るだけ短く記事にしたが、それでもページの半分のスペースの記事になってしまった。もう一度、省けるところを精査し、記事を短くしたい。

事務局：9月の全戸班回覧になるため、「いまりプラザだより30号」は次回8月の懇話会では完成したものの確認になり、変更は出来ない。8月上旬までに、今一度目を通し、記事や表記のアドバイスがあれば事務局に連絡してほしい。

以上を協議、了承を得る。

（3）講座アンケート結果について

- ・第5次 伊万里市男女協働参画基本計画策定のための『キラめく☆いまり』ワークショップ・アンケート報告
- ・男女協働参画子育て講座『みんなで学ぶ家族の防災』アンケート報告

事務局：子育て講座のアンケート設問「どのようなイベントがあれば参加したいと思うか」について、

- ・親子で参加できる体験講座
 - ・夫婦を対象とした講座
 - ・子どもの性について
 - ・男女協働参画社会実現のための講座
- の順で希望が多く、今後の講座開催の参考にしたい。

以上を報告、了承を得る。

（4）その他

- 男女共同参画週間パネル展開催時の協力お礼。
- 出前講座 会長、事務局対応
立花地区 7月28日（木）13：30～14：30を予定
テーマ：男女協働参画の視点で考える防災・避難所運営
対 象：立花レディースクラブ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 3

○伊万里市総合計画審議会の委員推薦について
懇話会推薦 プラザ委員1名の選任

以上を決定する。

○自由意見交換

委 員：7月15日「まちづくり市民会議」に懇話会委員から3名参加した。5月に懇話会で開催した「キラめく☆いまり」ワークショップと同じように高校生の参加があり、若い世代もしっかりとした考えをそれぞれに持っていて、積極的に意見を交換することが出来た。

主催者側がテーマを事前に割り振り紙に意見を書かせるスタイルは、何を記せば良いのか分からない。大きな流れの中で自由討議しながらテーマに沿っていった方が活発な意見交換が出来ると思う。

若い世代と市の政策等について語る場を増やせば、関心を持ち、選挙の投票率が上がるのではないか。

懇話会でも男女協働参画社会実現のために若い世代が参加できる企画を増やしてほしい。

委 員：市内中学生のカップルで、女子生徒が男子生徒の交友を制限しているという事案がある。これは懇話会で以前より使用しているデートDV防止啓発紙芝居のストーリーと同じであり、高校生だけでなく中学生にも啓発が必要だと思う。

委 員：中学校でのDV啓発教育は努力目標となっはいるが義務ではないため、学校によって意識の捉え方が違う。世間一般の大人が思っているより、DV未然防止が必要な年齢層は低下している。どうか懇話会で中学校でもデートDV防止の啓発を実施してほしい。

委 員：ゲームに依存している子どもたちが増え、家庭内での会話さえもなくなっていると聞く。親子間の関係も心配である。

委 員：家の中でテレビをつけていないと、家族内でも間がもたないという家庭もある。

等の事務局への要望、問題意識が出る。

5. 次回開催日

令和4年8月22日（月）18時30分から

市民センター 一般教養室2（予約状況により変更有）

6. 閉会

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。